



「光琳風むしくらべ」三冊の内 竹下金鳥画

三冊の内
この帖は木版多色刷、一冊十二図、横40.3cm、縦24.4cm
第一冊四番、「なのはなと蝶々」である。本図は昭和十一年、内田美術書肆刊。

花かがみ

HANA-KAGAMI

発行人／小笠原 肇 発行所／名古屋園芸株式会社
〒460-0005 名古屋市中区東桜2-18-13 tel.052-931-8701
http://nagoyaengei.co.jp/

'24 3

名古屋園芸

門出を祝う



- ① ブートニア イエロー (ローズ&ミモザ) ¥2,200 (税込)
- ブートニア ピンク (ローズ) ¥2,200 (税込)
- ブートニア ライム (コチョウラン) ¥3,300 (税込)

名古屋園芸では生花のコサージュのご依頼を承っています。造花では表現できないフレッシュなコサージュをご提案しております。生花は造花に比べて、豪華に仕上げる事ができます。また、香りを楽しむことができるのも生花ならではの魅力です。香りから式の思い出が蘇ることもあるのではないのでしょうか。そして、なによりも、多数の花の組み合わせで唯一無二のオリジナリティのあるコサージュをお届けすることができます。

3月のおすすめ Cut Flower コサージュ

3月にご卒業ご入学など新しい門出の季節です。今月はフォーマルな装いを彩る「コサージュ」についてご紹介します。

コサージュは衣服に着ける花飾りのことをいいます。「コサージュ」とも呼ばれ、もともとはフランス語の「コルサージュ」に由来します。昔フランスの貴婦人たちが小さな花瓶を胸元に付け、本物の花を挿してお祝いの席を着飾っていたことが始まりとされています。

現在になると、慶事の服装は黒や紺などベーシックな装いのものが多くなり、コサージュで明るく華やかな雰囲気を出し、喜びの気持ちを相手に伝えるという、表現のひとつになっています。

コサージュには自然と視線を集める効果があります。高めの位置(一般的には胸部)にコサージュがあると相手の視線が上がってすっきりとしたスタイルに見えたり、顔の近くで明るく華やかな印象を持たせたりする効果もあります。

ご予約は店頭、もしくはお電話にて1週間前迄にお問い合わせください。シンプルなおまかせコサージュ(カラー選択あり)は2,200円(税込)から。花材指定の場合は3,300円(税込)から承っております。

今月は生花でつくるコサージュとともに、祝福シーンを彩ってみてはいかがでしょうか。

江戸時代の植木鉢文化を語る

『江戸の植木鉢文化と尾張鉢』刊行

小笠原左衛門尉亮軒 西口郁夫 古橋尚 発行：雑花園文庫

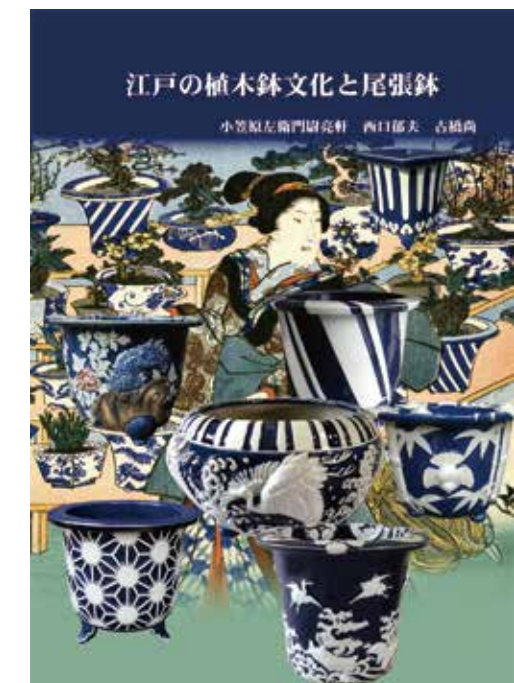
令和5年秋に名古屋の昭和美術館で開催された「尾張鉢？(つてなに)展」では、100鉢以上の江戸時代の鉢と当時の園芸資料が展示されました。会期中に行われた小笠原左衛門尉亮軒による「江戸時代に発展した鉢植え園芸」の講演は、参加者から大きな反響をいただきました。

この時の講演記録と尾張鉢を中心に江戸の植木鉢に関する新たな解説が盛り込まれた渾身の書が誕生しました。江戸時代の園芸書籍や刷り物、浮世絵に描かれた鉢と実在する同様の鉢を対にした画像が多数掲載されています。講演部分は英文表記もされ、広く海外の方にも日本の園芸文化を紹介できると期待されています。

この書籍は非売品であり一般書店での取り扱いはありません。今回限定200冊の頒布といたします。江戸の園芸文化や江戸時代の植木鉢にご興味をお持ちの方は、お早めにお申し込みください。



↑こちらからメールでお申込みできます



*申込要項

- ・2000円以上(名古屋園芸店頭渡し)
- または、2500円以上(郵送)のご寄附で1冊贈呈
- ・お申込みはおひとり様1冊限り
- 在庫がなくなり次第贈呈終了
- ・申込書は名古屋園芸店頭にて配布しております。

*お申込み・お問合せ先

一般財団法人雑花園文庫
〒460-0005 名古屋市中区東桜2-18-13
電話：052 (937) 3391 (平日10時~17時) FAX：052 (931) 8527
メール：soukaen-bunko@nagoyaengei.co.jp

*寄附金のお取り扱いについて

頂戴いたしました寄附金は、『江戸の植木鉢文化と尾張鉢』贈呈のほか、雑花園文庫の運営費として適正かつ有効に使用いたします。

information

カエデ展開催します!

カエデと言えばベストシーズンは秋!と、思っていないですか?実は春の芽生えのシーズンにも魅力がたくさんあります。ずらっと並ぶカエデは、切れ込みの深さや葉片の長さ、色までもが品種によって様々で、徐々に新芽を展開しながら個々の特徴を表現してくれます。

本展では50種類ほどのカエデが一同に店頭集まります。それぞれの個性を比べながら新芽の動きを観察してみてください。きっとお気に入りのカエデが見つかることでしょう。



【カエデ展】
開催期間：3月前半開始予定
開催場所：一階店頭



ふげんさくら

五色さくら

花の博物館 第338回

大内桜種類(一) 折一帖

跡見玉枝画 八十一歳著作 小笠原左衛門尉亮軒

〔著者、跡見玉枝さんは宮崎玉緒翁(京都市平野神社境内に桜の品種を集め、植えた人)に桜を描く方法の教えを受け、大正、昭和に多くの桜画の作品を世に残した。東京に住み、多くの上流家庭の婦女子の日本画の師として、また桜を描くことを教えた。しかし、大正十二年の関東大震災により多くの作品は灰塵に帰した。本作品は自筆画帖であり、一面一種桜花を描く。全二十八種。掲載図は、右は五色さくら、左はふげんさくら(普賢象のこと)で、花の中心部から葉化雌蕊二本が出ている姿を、普賢菩薩の乗る象の牙齒に見立ててこの名を得たという。その花容をよく写している。昭和六年刊の「桜の我が世」跡見家編並びに刊に記載されている。玉枝女史の肖像がある。

